

遊佐町埋蔵文化財調査報告書 第4集

# 小山崎遺跡

第8～11次調査概要報告書

K-366



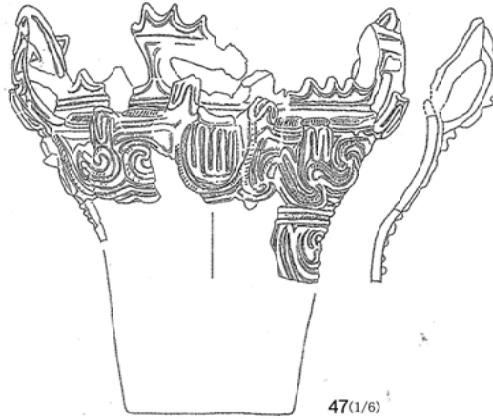
2005.3

山形県遊佐町教育委員会

遊佐町埋蔵文化財調査報告書 第4集

# 小山崎遺跡

第8～11次調査概要報告書



47(1/6)

2005.3

遊佐町教育委員会

## 序

本報告書は、山形県で実施した発掘調査に引き続き、遊佐町教育委員会が平成15年度と16年度に実施した、第8次から11次までの小山崎遺跡詳細分布の調査結果をまとめたものです。

小山崎遺跡は、縄文時代早期から晩期までの約3,800年間にわたって営まれた遺跡で、土器や石器、木製品・骨角器などが検出され、全国的にも脚光を浴びており、貴重な文化遺産の存在することが判明しております。2ヶ年4次におよぶ調査の結果、周辺から新たに7ヶ所の遺跡が確認され、小山崎遺跡を広域的な視点で位置づける好資料が得られ、それらを総括的に考察すべき方向が示唆されました。まだまだ不明な部分も多くありますが、今後も継続して発掘調査を進め、遺跡の全体像を明らかにする必要があるものと思われまます。

本報告書が埋蔵文化財に対する理解と関心を深め、その保護・普及の一助となれば幸いです。終わりに、本調査を実際に担当された佐藤禎宏調査主任をはじめ、調査委員渋谷孝雄・阿部明彦・小野 忍・酒井英一の各氏、調査指導いただいた山形県教育庁社会教育課文化財保護室・山形県埋蔵文化財センターやご協力いただきました関係各位に心から感謝申し上げます。

平成17年3月

遊佐町教育委員会  
教育長 小田島 健男

## 例 言

- 1 本書は遊佐町教育委員会が実施した小山崎遺跡とその関連遺跡調査の概要報告書である。
- 2 この調査は平成15年度に第8・9次、平成16年度に第10・11次として行なわれており、経費は緊急雇用対策事業によっており、本書は別途印刷費で出版する。
- 3 調査地は小山崎遺跡と既知の柴燈林・丸池遺跡周辺を対象としている。
- 4 調査体制はその主体である遊佐町教育委員会が小山崎遺跡調査委員会を組織して、小山崎遺跡発掘調査団に委託したもので、巻末に表示している。
- 5 遺跡周辺の地形図測量と調査地の基準杭の設定は、有限会社アース測量に委託した。
- 6 本書の編集と執筆は佐藤禎宏が担当した。
- 7 本報告書の作成にあたって、遺物の洗浄・注記・接合では高橋 艶・高橋皆子・阿曾孝子・三浦 娃・高橋信子・土門文子、諸資料の整理や復元・実測と図化作業では土門貢・本間一吉・土門 博・森谷 愛が、佐藤を補佐している。
- 8 本調査では文化庁、山形県教育委員会社会教育課文化財保護室、山形県埋蔵文化財センター八幡町教育委員会、遊佐町土地開発公社、箕輪鮭漁業生産組合、遊佐森林組合、池田和博・佐藤専一ら土地所有者、渋谷孝雄、阿部明彦、佐藤嘉広らの指導と協力があつた。
- 9 調査の記録と遺物は、遊佐町教育委員会が一括して保管している。

## 凡 例

- 1 検出遺構と遺物の登録は、下記の分類記号を用いて番号をそれに付している。  
SK…土坑、SD…溝、SX…性格不明遺構、SP…ピット、  
RP…土器・土製品、RQ…石器・石製品、RM…金属製品、RW…木製品
- 2 分布調査の第8次以外は、正方位のグリッドに基づいて調査している。試掘坑の名称は、各調査地区で南北線と東西線が直交する基点(NS0・WE0)を設定し、南(S)北(N)と東(E)西(W)への記号と距離で表記している。確認調査では小区に細分して記録した。
- 3 採録した地形図、調査の平面図・層序断面図の縮尺はスケールとともに付記している。土器の実測図と拓影は1/6、石器の実測図は1/3を原則としたが、写真の縮尺は不同である。
- 4 土器と石器にはそれぞれ通し番号を用いて、実測図と写真の同一個体は同一番号とした。土器の番号には出土試掘坑名や調査小区名を付している。
- 5 地層などの色調記号は『新版標準土色帖(1997年版)』(農林水産省農林水産技術会議事務局監修)による。
- 7 本文では関連機関について次のような略称を使用した。山形県教育委員会：県教委、山形県埋蔵文化財センター：県埋文、山形県立博物館：県博、遊佐町教育委員会：町教委

## 目 次

卷頭図版1～5	
I 遺跡と調査	
1 遺跡の位置	1
2 調査の経過	2
3 本次の調査	3
II 分布調査	
1 調査地と試掘坑	4
2 各調査地区の概況	4
III 確認調査	
1 B地区第I区の調査	8
2 第10次第I区の調査	9
IV 成果と課題	10
図版1～16	
調査体制・小山崎遺跡関係報告書	30
報告書抄録	

## 挿図表・図版目次

### 卷頭図版

- 1 遺跡遠景・空中写真
- 2 調査区の層序
- 3 土器と検出状態
- 4 出土の土器
- 5 出土の石器

### 挿 図

- |                   |   |
|-------------------|---|
| 図1 小山崎遺跡の位置と周辺の遺跡 | 1 |
| 図2 小山崎遺跡の調査状況     | 3 |
| 図3 第8～11次調査の位置と地形 | 5 |

### 挿 表

- |                     |    |
|---------------------|----|
| 表1 小山崎遺跡調査の経過       | 2  |
| 表2 第8～11次調査実施状況     | 4  |
| 表3 第8～11次調査の出土遺物集計  | 7  |
| 表4 第8・9次調査の出土遺物一覧   | 11 |
| 表5 第10次第I区調査の出土遺物一覧 | 12 |
| 表6 掲載石器属性表          | 13 |

### 図 版

- |                          |
|--------------------------|
| 図版 1 A・E・F・G・J地区の調査      |
| 図版 2 B地区の調査              |
| 図版 3 C地区の調査              |
| 図版 4 D・H・I地区、第10次第II区の調査 |
| 図版 5 B地区第I区の調査           |
| 図版 6 第10次第I区の調査          |
| 図版 7 B・C地区出土の土器実測図       |
| 図版 8 B地区出土の土器実測図         |
| 図版 9 第10次第I区第1～5層出土の土器拓影 |
| 図版10 第10次第I区第1～5層出土土器    |
| 図版11 第10次第I区第5～9層出土の土器拓影 |
| 図版12 第10次第I区第5～9層出土土器    |
| 図版13 第8・9次調査の出土石器実測図     |
| 図版14 第8・9次調査出土石器         |
| 図版15 第10・11次調査の出土石器実測図   |
| 図版16 第10・11次調査出土石器       |



1 遺跡遠景(←南西)



2 遺跡遠景(←南)



3 周辺の地勢(○は小山崎)



4 小山崎遺跡周辺(←南東上空)



5 第10次第 I 区ea層序



6 第10次第 I 区近景(←北西)



7 B地区第 I 区北西部層序



8 B地区第I区uの土器検出状況



9 深鉢形土器(40)



10 倒立して出土した深鉢形土器(43)



11 深鉢形土器(43)



12 アスファルトの容器(10Iee5層出土)

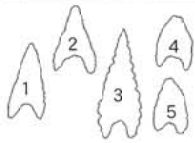


13 漆塗土器(10Iaa5層出土)

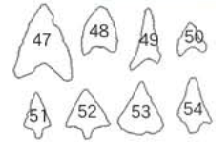




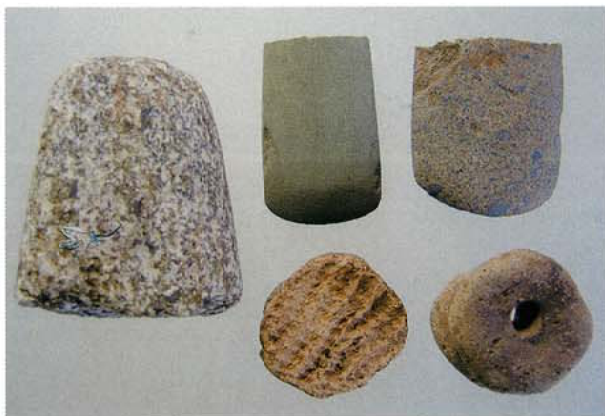
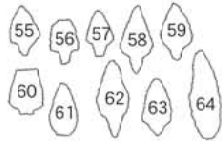
14 石鏃(B地区出土1/1)



15 石鏃(10I出土1/1)



16 石鏃(10I出土1/1)



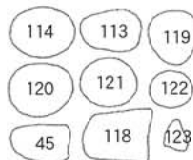
17 磨製石斧・円盤状土製品・耳飾(10I出土)



円盤状土製品 耳飾



18 磨製石器(10I出土)



# I 遺跡と調査

## 1 遺跡の位置

小山崎遺跡は山形県飽海郡遊佐町大字吹浦字七曲、七曲堰ノ東に所在する。JR羽越本線の吹浦駅から東方1kmの位置にある。遺跡は鳥海山(2229.9m)の南西麓にあり、平野部に張り出した小山崎(俗称)と呼ぶ標高5m前後の低平な溶岩台地を中心としている。この周辺では鳥海山裾野の山塊が入り組みながら庄内平野の北端と接しており、遺跡の南を限る牛渡川は500m西南で滝淵川に合し、さらにその先で洗沢川、そして本流の月光川(吹浦川)と合流し、庄内砂丘北端を横断して日本海に注ぎ込む。この河口は遺跡の1.5km西である。このように遺跡付近の地勢は変化に富み、庄内の地形的要素である海・山・川・平野・砂丘が、凝縮されたように限られた狭い地域内を構成している。牛渡川は鳥海山腹の観音森(685m)南東に発する全長3km足らずの川である。その水流は岩間からほとぼしる多くの湧水によっており、通年11度を保つ透明度の高い清冽な水は、バイカモ(金魚草)を育み鮭の溯上する川となってきた。小山崎東側にある箕輪鮭人工孵化場では、年間平均約3万尾の鮭を捕獲している。

県教委の『山形県遺跡一覧(2004年度版)』によれば、遊佐町域には199ヵ所の遺跡が分布している。縄文時代の107ヵ所は山麓部を縁取るように散在している。その中には小山崎北方48kmに後期の青銅刀を出土した三崎山A遺跡、南西5kmに中期末から弥生初頭の神矢田遺跡、同方向9.2kmに石囲い中に埋置された晩期の土偶を出土した杉沢A遺跡などがあり、遺跡の西1kmに鎮座する大物忌神社と神宮寺跡は、『三代実録』に記載された雨降った石鏃の発見地に関わっている。遊佐町には学史に残る遺跡が多い。

1892年に羽柴雄輔は丸池遺跡の石器3点を紹介している(『東京人類学雑誌』8-79)。長谷部言人は1919年に吹浦一本木貝塚出土の土器・石器と貝類に触れている(『東京人類学雑誌』34-8)。さらに『日本石器時代遺物発見地名表』(東京大学理学部人類学教室編纂 1928)には、吹浦村内の23ヵ所が記載されており、昭和初期の県内市町村では最多の発見数であった。戦後になって酒井忠一・加藤 稔は報告書『吹浦遺跡』(1955)で、近くの丸池・柴燈林・小山崎・小谷地

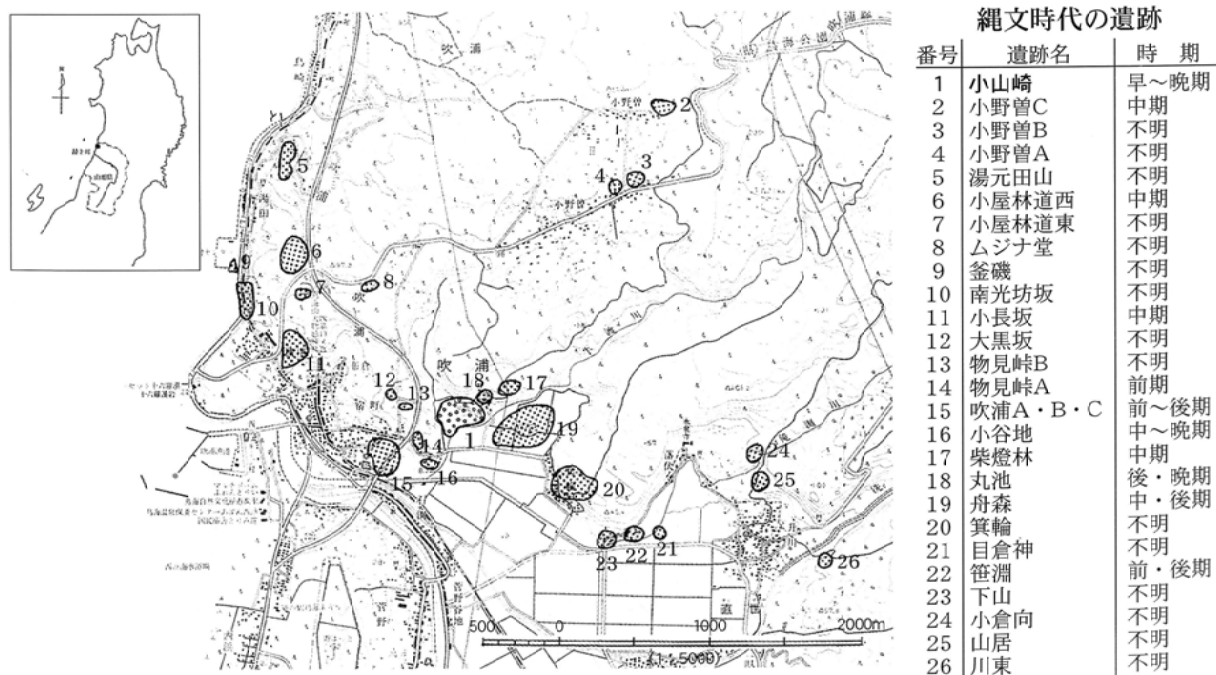


図1 小山崎遺跡の位置と周辺の遺跡

・戸ノ内田の5遺跡を紹介し、赤坂・寺屋敷・小野曾・箕輪上山・尾落伏下山・盲神・榊川・藤崎の出土品などを表示している。このように図1に示した吹浦一帯の縄文遺跡の多くは、県内でも比較的早い時期から注意されてきた。とりわけ吹浦遺跡は県下の本格的な考古学調査の先駆けとなった。1951年から4次の発掘調査が行われて、前期末から中期初めの集落跡と小貝塚が検出され県指定史跡となっている。その後1983年から国道7号線バイパス工事に伴って再び4次の調査が実施され、竪穴住居群と多数の袋状貯蔵庫のある集落が明らかになった。また柴燈林遺跡からは中期の多量の遺物が採集され、丸池遺跡は古墳時代の金環や玉類の出土で注目されてきた。小山崎周辺の既知ないし未知の幾多の遺跡は、縄文人にとって格好の居住条件があったことをうかがわせている。

## 2 調査の経過

『日本石器時代遺物発見地名表』の小山崎出土品は、井上頼寿の報告として「石鏃・打石斧」を記載している。さらに酒井らは小山崎遺跡の解説中で「高所が土取りのため相当崩され荒れている」と指摘し、遺跡北側の林道工事で相当な出土品があったこと、丘陵沿いの七曲堰川底に多数の遺物が埋まっていること、それらの土器片から縄文中期後半から後期前半の時期と推定している。また七曲堰の北側に繊維土器片の包含層があることから、丸池周辺一帯は前期から晩期にわたる複合遺跡と想定した(『吹浦遺跡』1955)。その後の小山崎遺跡は県教委の分布調査で、縄文時代中期～後期の遺物が出土する遺跡として登録されてきた。

この小山崎遺跡周辺に県営圃場整備事業が計画され、遺跡をめぐる事態が急展開する経緯は表1と図2の通りである。県教委は1990年に表面踏査、92年には試掘調査(165ヵ所)を実施して、範囲を小丘陵から西側谷合の水田全域で東西・南北各300mとし、小丘陵の西南縁辺に遺物包含層の集中地点を確認した。出土品は縄文時代の土器・石器と平安時代の須恵器・赤焼土器である。その後圃場整備事業の実施が1年間繰り上がることとなり、遺物の出土範囲は全面盛土とし、95年に破壊が生じる用排水路の緊急発掘調査を行なっている。この調査は、2,412㎡の表土を除去し、153㎡の深掘区・拡張区が精査されている。良好な保存の低湿地遺跡であることから、記録保存を範囲確認調査に変更している。各深掘区では深さ2.5m前後まで11～16層が認められて、縄文早期末から晩期中葉にいたる土器と動植物遺存体と木製品が発見されている。同時にT9北2拡張区で27本の柱根と116点の川原石を使った配石を検出している。このような希少な成果から県教委は関係部局と協議を重ね、小山崎丘陵西域の水田東半部は事業から除外して、遊佐町土地開発公社が買収し公有化することとなった。2004年10月に遊佐町は小山崎遺跡歴史公園(仮称)建設事業用地として、1万1307㎡を公社から取得している。

表1 小山崎遺跡調査の経過

調査次	現地調査(実働日数)	調査区	面積	調査主体(担当)
分布	1990年	山麓・平地の表面踏査	260×250m	山形県教育委員会
試掘	1992年10月28～30日	水田に試掘坑165ヵ所	41.25㎡	山形県教育委員会
第1次	1995年7月25日～9月13日(23)	T1～11	2412㎡	山形県教育委員会
第2次	1998年7月22日～8月28日(23)	A・B区	80㎡	県教委(山形県立博物館)
第3次	1999年7月21日～8月28日	C～H区 6ヵ所	102㎡	県教委(山形県立博物館)
第4次	2000年5月29日～9月1日	第一～三区	580㎡	山形県埋蔵文化財センター
第5次	2000年7月26日～8月29日	山麓I～P、丸池Q	180㎡	県教委(山形県立博物館)
第6次	2001年7月3～31日	R～T区 3ヵ所	60㎡	県教委(山形県立博物館)
第7次	2002年6月5～8日(4)	ボーリング調査	1㎡	県教委(山形県立博物館)

1998年～2002年に県教委が主体となって、第2～7次の重要遺跡確認調査を実施している。4次以外は国庫補助事業として県博が担当した調査である。この一連の調査は遺跡の範囲と内容の確認を目的としており、約3400㎡から土器や石器など350箱を得ており、水場遺構・柱穴列・焼土遺構・小貝塚などが発見され、土壌と花粉の分析は各地層堆積時の地形的な推移や森林植生などの古環境を復元している。こうして小山崎丘陵とその周囲の縄文時代の景観を含む情報が増えてはいるが、多大な遺物を残した居住の本拠地は確定できなかった。

## 3 本次の調査

県教委の調査成果を受けて、町教委は2003年度に第8・9次調査、翌04年度に第10・11次調査を行なっている。いずれも緊急雇用対策事業としての実施である。今回の4次にわたる調査の目的は、低湿地の活用に密接に結びつく縄文時代の集落跡、とりわけ出土遺物の多数を占める後期の本拠地の所在を究明することにある。あわせて小山崎周辺の遺跡の存在・範囲・時期・性格を探求している。

この調査では試掘を伴う分布調査を主体としながら、一部で確認調査を行なっている。第8・9・11次調査では主として山林の分布調査、第9・10次調査では山間と小山崎丘陵西側の平地を対象に確認調査を敢行した。調査地はすべて鳥海山国定公園の領域内であり、山間は民有林、平地も一部が私有地であり、それぞれ認可の協力を得ている。分布調査は10地区、確認調査は2ヵ所であり、その対象面積は合計4万4036㎡、1㎡の試掘坑は235ヵ所、確認調査の面積は118㎡で、調査した合計面積は371㎡であった。出土遺物は整理箱で8・9次が22個、10・11次が24個であった。これらの現地調査の日数は延べ63日間である。調査は表2・図3のように実施している。

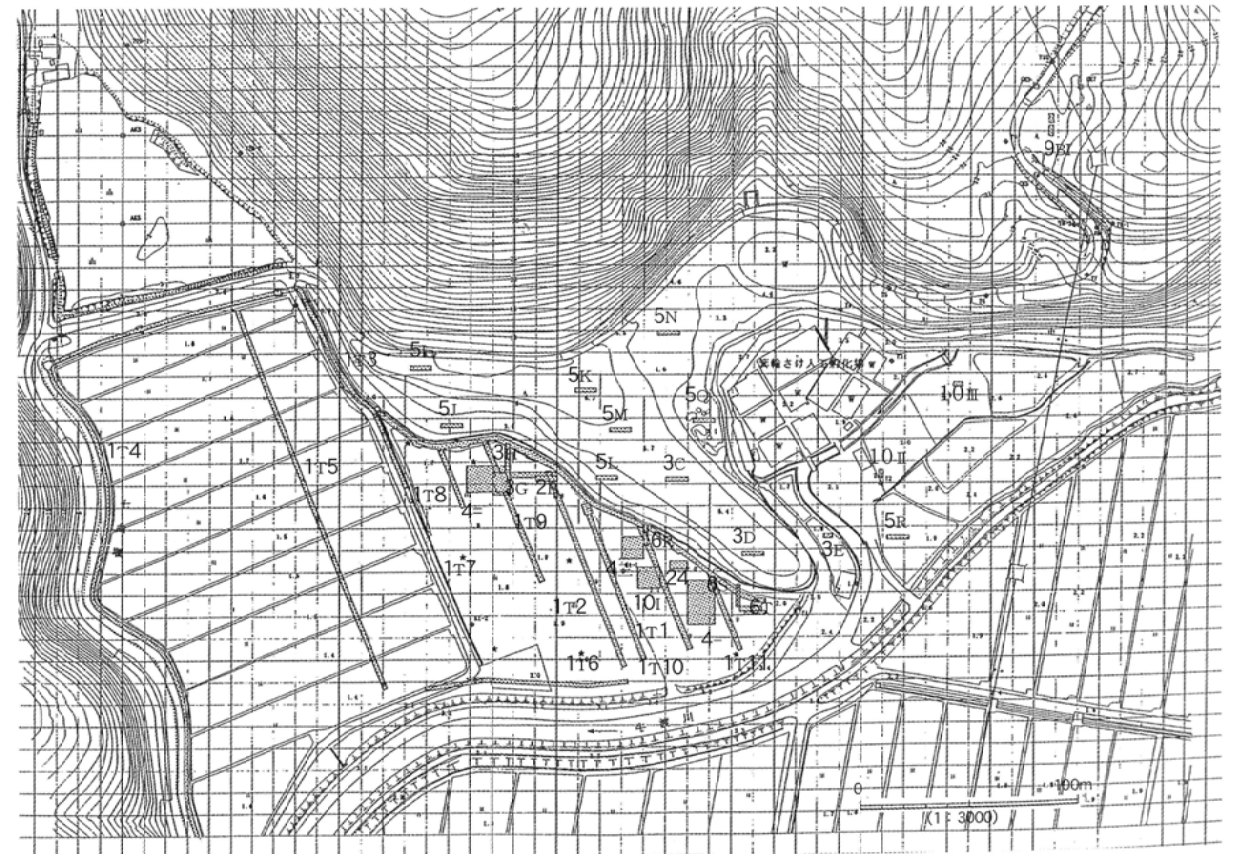


図2 小山崎遺跡の調査状況 (記号は調査次数・調査区名)

表2 第8～11次調査実施状況

調査次	調査年度	現地調査期間	地区 (区)	予定杭(地) (カ所、m)	対象面積 (㎡)	実施坑(地) (カ所、m)	調査面積(㎡) 面積合計
8次	平成15年	7/7～31	A	29	1700	13	13
			B	176	12300	58	58
9次	平成15年	10/20～11/19	B	2×10m	20	2×9m	18
			C	73	5800	37	37
			D	63	3800	37	37
			E	80	6300	32	32
			F	23	1200	21	21
			G	57	4400	2	8
10次	平成16年	6/28～8/10	I	10×10m	100	10×10m	100
			II	2×4m	8	2×4m	8
			III	2×4m	8	2×4m	8
11次	平成16年	10/27～29	H	10	3600	10	10
			I	9	2400	9	9
			D	8	1200	8	8
			J	4	1200	4	4
合計			10地区	536カ所	44036	235カ所	371

## II 分布調査

### 1 調査地区と試掘坑 (図3)

分布調査は小山崎丘陵北方で東西に広がる山麓部を対象としている。調査地区には急峻な斜面を避けて緩やかな斜面や平坦部を選地し、調査順にA～J地区と仮称した。B地区は柴燈林遺跡にあたる。試掘坑の設定ではA地区が任意の軸線、B地区が東北電力の鉄塔を原点とした送電線方向の軸線を採用している。9次調査以降は地形図が完成しており、第2次調査以来の網目を踏襲したグリッド配置図によっている。一辺が100mの大区、それを2m四方で細分した小区の枠目に基づいたものである。各地区では10m毎に予定杭を立てており、原則として20mおきの市松状に位置する方1mの試掘坑を調査している。

### 2 各調査地区の概況

以下、各地区の調査状況を略述する。遺物の出土は表3・4に集計している。

**A地区**(図版1) 丸池神社の西より急斜面を登攀した、標高50～60mの山腹の小さな緩傾斜面である。13カ所を試掘して4カ所で2層(極暗褐色土)から微量の縄文土器と赤焼土器が出土した。土器片は縦位の櫛描状に並列した沈線文で後期前葉であろう。

**B地区**(図版2・7・8・13) 高倉林道と送電線の交叉する地点を中心とする、標高18～30mの緩やかな傾斜面である。58カ所を試掘している。送電線西側に旧山道、N110-E30の北西に積石があり、N40-WE0の附近に鉄塔建設中の取付道路があった。斜面の随所に散岩があり礫の出土で終了した試掘坑も多い。地層は調査位置によって相違するが、N20-W20の場合は1層が灰黄褐色土約15cm、2層が暗黄褐色土約35cm、3層が粘りのある黒褐色土約30cm、4層が炭化物を含んだ黒色土約25cmであり、地表面下110cmで5層の明黄褐色粘質土(地山)に達し、2～4層が遺物包含層であった。遺構としてはN60-W10で直径25cm、深さ約30cmのピット、N30-E20の西半分深さ18cmほどの落込み、N30-W10とN20-W20は土器投棄場、NS0-W50、N10-W50、N50-W10、N70-E10の包含層最下面で、固く締まった炭化物を含む生活面(床面)を認めた。48カ所の試掘坑から6657点の遺物が出土しており、遺跡は東西



150m、南北130mの範囲に広がっていた。

土器は縄文中期の大木8a式土器が主体であり、同7b式土器を交えていた。器形は大小の深鉢と浅鉢がほとんどである。石鏃など石器の出土も多い。N30-W10で火炎土器片が発見された。下胴部を欠失した47である。口径24cmのキャリパー形の口縁部と胴部上半一面に、粘土紐で横に連続する2段の渦巻文を描き、大小2個を一对とした袋状突起が貼り付けてある。口唇部には鋭い鋸歯文が連なり、短冊形突起で支えた鶏冠状の鋸歯文のアーチ4対がつく火焰型の土器であった。現高は22cmである。N40-W30でも胴下半部の破片が発見されている。

**C地区**(図版3・7) B地区東部の斜面を駆け上がった標高30~37mの小さな丘陵で、頂上部に平坦面がある。試掘坑43カ所中の36カ所から遺物が出土している。包含層が良く残存しており、設定グリッドのほぼ全域、東西80m、南北100mが遺跡内と認められた。N10-E20で竪穴住居跡の一部を検出している。この試掘坑の東壁は1層が黒褐色土12cm、2層が黒褐色土14cm、3層が暗褐色土16~23cm、4層が黒褐色土8~17cm、5層がやや粘質の暗褐色土約10cm、以下6層の黄褐色粘質土でこの上面に焼土が検出された。5層中に石組が設置されており、3~5層が遺物包含層であった。

B地区に次ぐ2311点の遺物が出土している。土器類は縄文中期の深鉢と浅鉢の破片であり、大木7b・8a・9式土器をわずかに含んでいるが、大半が渦巻文の発達した大木8b式土器であった。この時期の集落跡といえる。S50-W40の3層から、口縁部がくの字に内折して連続爪形文を施した浅鉢が単独で出土している。北陸の新崎式土器の系譜であろう。

**D地区**(図版4) C地区の基準杭DK5の北東150m、標高36mの小丘陵の南西・南東斜面である。46カ所の試掘坑の内、28カ所から遺物を発見し、S50-E30には土坑状の土色変化があった。西部のS40-W60北壁では1層が黒褐色土18cm、2層が黒褐色土27cm、3層が黒色土36cm、4層が黒褐色粘質土であった。包含層は斜面では薄く、西部の谷間では部厚かった。

表3 第8~11次調査の出土遺物集計

調査次	調査地区	調査日	土製品					石製品										合計	総計				
			口縁	胴	底	合計	他	石鏃	石鏃	石匕	剥片	他	磨斧	磨石	砥石	凹石	他						
第8次	A地区	7/9.16	1	7	4	12	4															16	
	B地区	7/10~23	810	5507	188	6505	7	10	4	2	89	1	1	14	19	2	3	145				6657	
	表面採集	7/7.8.22	1	47		48																48	
	合計		812	5561	192	6565	11	10	4	2	89	1	1	14	19	2	3	145				6721	
第9次	B I区	10/31~11/13	718	4654	168	5540	1	1	2		59	5	2	9	7	3	7	95				5636	
	C地区	10/27~31	250	1875	85	2210		5	2	3	53	4		14	6	2	12	101				2311	
	D地区	10/23.24, 11/12.13	5	200	3	208		1			5	4		2	2	1	1	16				224	
	E地区	10/20~22																					47
	F地区	10/22.23	1	46		47																	47
	G地区	11/17.18	1	14	1	16															1	1	17
	合計		975	6789	257	8021	1	7	4	3	117	13	2	25	15	6	21	213				8235	
第10次	10 I区	6/28~8/10	346	4182	140	4668	16	25	5		606	31	9	21	3	6	34	740				5424	
	10 II区	8/3~5		4	1	5					1					1						2	7
	10 III区	7/7																					
	合計		346	4186	141	4673	16	25	5		607	31	9	21	4	6	34	742				5431	
第11次	H地区	10/27		4		4																4	
	I地区	10/28																					
	D地区	10/28		26		26					1										1	27	
	J地区	10/29	4	14		18					2										2	20	
	合計		4	44		48					3										3	51	
総計		2134	16540	590	19307	28	42	13	5	816	45	12	60	38	14	58	1103				20438		

遺物出土の試掘坑は東西150m、南北80mにおよぶが、出土遺物は251点と少量である。後期前半の土器に中期後葉が加わっていた。斜面での検出であり居住は確かであるが、規模の大きな長期間の集落の形成は不可能である。

**E地区** A地区の北約100m、標高67~69mの広大な台地の南西端部である。33ヵ所を試掘しているが、遺構と遺物は皆無であった。

**F地区**(図版1) E地区から小沢を越えた北東、N58-E154の2層(褐色土)で土器片が発見され、周囲で試掘坑15ヵ所を調査しているが、他に遺構・遺物の出土はなかった。出土の縄文土器は薄手で赤褐色をした無文の破片で、大半が同一個体であるが時期は不明である。

**G地区**(図版1) 七曲低湿地の北部、沢が南に開けた標高約3mの平地で、2m四方の2ヵ所を試掘している。NS0-E50の層位は、0層が約20年前の産業廃棄物による盛土で厚さが148cm、1層が旧田面下の黒褐色土36cm、2層が黒褐色土24cm、3層が黒色粘質土27cm、4層が黒褐色粘土で礫石と立木があり、50cm下でアシの葉や根を混入した5層の黒色粘土を確認している。地表面から2.48mまで掘り下げて、出水と壁面剥落のため終了した。図版1-5は1・3層出土の縄文土器である。時期は不詳であるが遺物の包含が確認された。

**H地区**(図版1) 高倉林道を挟んだD地区の北側である。10ヵ所の試掘坑の内、1ヵ所から3点の土器片が出土している。時期は不明であるが散布地とする。

**I地区** D地区と南走する浅い谷を挟んだ東部である。9ヵ所に試掘坑を入れているが、遺物の包含層はなく出土品は皆無であった。

**J地区**(図版1) G地区北端から北に約100m、標高約10mの谷間の平地で試掘坑4ヵ所を調査した。1層は20cm前後の暗褐色土、2層は10~20cmの褐色土で、その下は大小の礫石であった。N80-E30で2層上部から18片の土器が出土した。器厚が6mm前後の薄手で、口縁部の片面ないし両面に平行沈線文、細かい斜縄文と区画沈線外の磨消が特徴的である。弥生中期の土器かと見られる。

**第10次第II・III区**(図版4) 鮭孵化場と牛渡川を挟んだ南東部、小字が荒川の2ヵ所に、南北に長い2×4mの10II・10IIIの試掘坑を調査した。東部の10IIIは標高2.9mで常時湧き出る水で覆われている。55~60cmの盛土を確認するが、強い出水で調査は不能であった。

10IIは孵化場駐車場の東側、標高2mの休耕田(豆畑)に設定した。階段掘で北部を2.6mまで掘り下げて14の層位を確認している。1・2層は盛土であり、3層以下は未分解植物のある粘質土や粘土の互層となっており、5層がいわゆる黒泥であった。多量の未分解植物含んだ12層暗赤褐色粘質土から、縄文後期後半の土器を検出している。

以上が分布調査の成果であるが、小山崎に近接する山間の状況が明らかになったといえる。

### III 確認調査

#### 1 B地区第I区の調査(表4、図版5・8)

B Iは分布調査で多量の遺物が出土したN30-W10の南、N20-W20の東に設定した南北10m、東西2mのグリッドで、B地区の時期と性格の一端を探ることが主目的である。調査区内を方1mの小区に分けて、北西よりa~t区と呼称しているが、中央のi・j区は未調査である。またN30-W10とB I北西部を繋いでu区としている。予めN30-W10で地層を確認しているが、南東壁の5層を中心に再び多くの土器が出土した。標準層位を西壁で見ると、1層が厚さ5~12cmの黒褐色腐植土、2層が0~24cmで暗褐色耕作土、3層が0~25cmで締りのある暗褐色土、4層が16~32cmで炭化物を含んだ暗褐色土、5層が13~35cmで遺物と炭片の多い黒色腐植土、

6層が17~38cmで粘りのある漆黒腐植土、7層が褐色粘質土の漸移層であった。

調査区南半で土坑・埋設土器・ピット、北半で土器投棄場が出土している。SK1はn区6層で検出され、47×59cmの円形内に底径15.8cmの胴下半部の土器が正立していた。埋設の土器は赤褐色薄手無文で時期は不明である。SK2は南西隅のs区で3層下面から1.02cm掘り下げられていた。m区の西壁では2層下面から掘り下げた直径43cm、深さ72cmのピットが出土しているが、いずれも無遺物で時期不明である。

5,634点の遺物が出土しており一次的な包含状態は5層であった。それらはN30-W10に近接する北西部のu・a・c・e区で全出土数の50%を占め、積み重なって密集した状態にあった。器形は大小の深鉢と少数の浅鉢で、6個体が復元された。大型の深鉢はキャリパー形の口縁部に、橋状や環状の隆々とした4個の突起が起立しており、胴部には斜縄文の上に3条一組とした沈線文や貼付文が施されている。深鉢40は底部を欠失するが現高64.8cmを測り、中央で膨らむ胴部上半は沈線による渦巻の曲線、下半は粘土紐の貼付によるクランク文である。土器の大半は大木8a式土器の範疇にあるが、横位や縦位の捺糸圧痕文をもつ大木7b式の深鉢や浅鉢の土器片もある。なおa・b・f・h・qの5ヵ所から、火炎土器片11点が出土している。

#### 2 第10次第I区の調査(表5・6、図版6・9~12、15・16)

小山崎丘陵の西側、2次で柱根のあったA区の西4m、4次三区の南4m、標高2.1mの地点に10×10mのグリッドを設定した。この区内は2m単位で碁盤目状に細分して、北西よりaa~eeと呼称している。現地調査中に牛渡川の洪水で借用事務所に被害があった。調査は人力で層位的に掘り下げながら、全面を6層上面まで精査し、北東隅のeaは2.15m、南西隅のaeは2.2mまで掘り下げて深部を観察している。堆積した層位は10層に区分され、1層は盛土、2層は、かつての耕作土であった。3・4層は腐植土でこの層位以下は南にわずかに低く傾斜していた。5層の黒色粘質土は植物が形を失うまでに分解の進んだいわゆる黒泥(muck)である。6層以下は青灰色を基調とした砂・土・粘質土・泥などの互層となっており、ヨシなど未分解植物が多量に含まれた泥炭であった。

2層中から斜走して交叉する暗渠が出土している。4・5層中から木製品が検出された。RW3・5は流木であり、RW4は直径3~5cmの細木の林立だが、下端で根が確認された。RW2・6~8の丸木に掘方はなく、3本は横倒し状態の検出で加工痕も認められず、2は下端近くで屈折していた。建物を構成する配置とはいえ、丸木が人為的な材と断定できなかった。6層上面で大小のピット26ヵ所を精査しているが、いずれも深さ2~7cmで起伏に応じた5層の落込みであった。RW4の南東には風倒木(SX1)による土色変化がある。

出土遺物は5478点で、1・2層には近世以降の遺物もある。縄文土器4676点と石鎌・石錐・石筥・調整痕のある石器・磨製石斧・磨石・凹石・石皿・砥石と剥片606点、土偶の脚部片、円盤状土製品などが出土している。石鎌には後期的な形態や石材が特徴的であった。遺物は調査区内全域に散在していたが北部に多く南部に少なかった。層位別の出土数は2層が2275点(43.5%)、5層が2433点(46.5%)で、この二つの層で90%を占めていた。土器はほとんどが小破片で接合例は極端に少なく、器形全体を把握できる資料は皆無であった。すべて一次的な原位置にはなく流入した状態での検出である。したがって以下の土器の観察も胎土・焼成・調整とりわけ施文法によることとなった。

図版9~12は層位別にした縄文土器の出土例である。1~4層には後期を中心にして、中期や晩期の土器片がある。5層の土器は5A~5Jとして、おおむね該当時期と型式の推移で並べている。器形は大半が深鉢で浅鉢や鉢などもある。Aの土器は前期でS字状連鎖捺糸文、細い貼付文に刻目、口唇部に並列する刺突文など、大木2b・3・6式に併行する。Bは中期前葉から中葉の土器で、交互刺突文や懸垂する貼付部への刻目、口縁に沿った波状貼付文、口縁部装飾の渦巻文、胴部の沈線や粘土紐貼付による直線や曲線文などは大木7a~8b式土器である。

う。Cは沈線や隆起線で区画して縄文や燃糸文を充填する大木9・10式土器に比定できる。D～Iは後期の土器である。Dは外反する波状口縁で、口縁部に無文帯があり、沈線文が弧を描いて垂下し部分的に縄文が磨り消され、浅い凹部(盲孔)もある。宮戸Ib式などに併行の土器であろう。Eは関東の堀之内1式に併行する土器であろう。波状口縁の基点から放射状に広がる沈線文がある。器面の列点文(120・121)と区画内の縦の並ぶ沈線文(142・143)は北陸の三十稲葉式土器の特徴である。Fは平行する直線と曲線による縦位の沈線文を用いた磨消縄文で、南境1式土器などに類似する。Gは平行沈線文が横位に施される磨消縄文で、宮戸IIaないし南境2式土器にあたる。Hは大きな波状口縁をもち、口縁端に沿った帯縄文には縦の弧線の連結があり、地文は羽状縄文で、充填する縄文に列点の縁取りがあり、宝ヶ峯1式土器である。Iは口縁部に帯状の羽状縄文や列点文が連なり、胴部に弧線で描く大模様区画の磨消縄文があり、宝ヶ峯2式や加曾利B2式土器に併行しよう。Jは少量・小片であるが小突起の口縁部、瘤付土器、三叉文などがあり、後期後葉の金剛寺式土器から晩期初葉大洞B式土器の時期であろう。Kは粗製の深鉢で縄文・燃糸文・並列沈線文・網目文などがあるが、後期の各型式に付随するものであろう。6～8層には中期の土器が多くなっており、9層では後期が稀となり火炎土器片などもあがるが、S字状連鎖燃糸文や網目文など前期の土器片が増えていた。

#### IV 成果と課題

- 2カ年4次におよぶ調査の成果と課題は表裏一体の関係にあるが、以下に要約しておく。
1. 分布調査と確認調査の範囲内では、小山崎遺跡に縄文時代後期の遺物を残した集落跡は確認できなかった。今後とも引き続き究明すべき中心的な課題である。
  2. 柴燈林遺跡(B地区)は縄文時代中期中葉のやや広範な集落跡と判明した。なお、既知の丸池遺跡採集品は小松昌一の証言により柴燈林遺跡の出土であることが判った。
  3. 新たに7カ所の遺跡が認められた。そこでA地区は縄文時代後期と平安時代の包蔵地で柴燈林2遺跡、C地区は縄文時代中期中葉の集落跡で牛渡1遺跡、D地区は縄文時代中期から後期の集落跡で牛渡2遺跡、F地区は縄文時代の散布地で柴燈林3遺跡、G地区も縄文時代の包蔵地で七曲道ノ上遺跡、H地区も縄文時代の散布地で柴燈林4遺跡、J地区は弥生時代の包蔵地で柴燈林5遺跡と仮称する。小山崎遺跡を広域的な視点で位置づける好資料が得られた。なお、諸般の都合により紙幅が限定されたため、豊富な資料を十分に駆使した紹介ができなかった。なるべく多くの資料を盛り込むために、挿図表や図版は縮小せざるを得なかった。意を尽くしきれなかった部分については、機会を得て補充していきたいと考えている。

#### 主要参考文献

柏倉亮吉・江坂輝弥・酒井忠純・酒井忠一・加藤 稔 1995年『吹浦遺跡』荘内古文化研究会  
 後藤勝彦 1990年『仙台湾貝塚の基礎的研究』東北プリント  
 鈴木克彦 2001年『北日本の縄文後期土器編年の研究』雄山閣  
 森谷昌央・黒坂弘美 2003年『砂子田遺跡第2・3次発掘調査報告書』県埋文調査報告書第113集  
 水戸部秀樹 2003年『かっぱ遺跡発掘調査報告書』県埋文調査報告書第114集  
 新潟県立歴史博物館編 2004年『火炎土器の研究』同成社  
 後藤勝彦 2004年「南境貝塚調査の層位的成果 I 7トレンチの場合」『宮城考古学』第6号

表4 第8・9次調査の出土遺物一覧

地区	試掘坑	層位	土製品				石製品		合計
			口縁	胴	底	打製	磨製		
A	S10	E50							0
		E40							0
		E30							0
		E10							0
		NS0	2	1	2				3
	NS0	E40	1	1					1
		W20	2		4				4
		E20							0
		WE0							0
		N10	W50						0
	N10	E10	2		1				1
		E10	2		1	2			3
		N20	W10						0
		N30	W10						0
		N40	E10						0
B		S10	W20	2	1	43	1	1	46
		W30	3	6	39	3	3		51
		W20	2	5	29		1	1	36
		W30	3	5	35	1			41
		NS0	W80	2	7	66	2		75
	NS0	W70	2				1		1
		W60	2	7	111				118
		W30	3	8	88	1	1		98
		W50	3	25	166	8	1	3	203
		W40	4	22	63	2			87
E20		3		2				2	
N10		W70	2					0	
W60		2	2	7	1		1	11	
W30		3		2			1	3	
W50		2	21	126	3	2	2	154	
N20	W60	2	12	58	5	1		76	
	W20	2		2		1		3	
	W30	3		2				2	
	W40	3	2	13	2		2	19	
	W20	2	10	124				134	
	W30	3	78	506	29	4	3	620	
	W40	4	25	117	3			145	
	WE0	2	18	127	5	3		153	
	E30	4	6	40	2			48	
	E50	2	17	111	7	6	1	142	
N30	W70	2	12	53	4	2	2	73	
	E50	3	7	23	1			31	
	W10	2	10	139	6	1		156	
	W30	3	145	525	24	6	1	701	
	E20	1	4	45	2	2	1	54	
	W20	2	66	421	15	1	6	509	
	N40	W60	3	7	47	3	1	58	
	W30	3	1	10				11	
	E10	2		8				8	
	E30	2	7	70	1	1		79	
NS0	E50							0	
	E80							0	
	E100	3	23	98	5			126	
	E120	3	8	11				19	
	E160	2		2				2	
	NS0	W60	2				1	1	
	W10	2	4	104	3	3	2	116	
	N60	W40						0	
	W20	2	4	15		1		20	
	W10	2				1		1	
NS0	W30	3	1	68		1		70	
	W20	2	19	351	3	13	3	389	
	W30	3	16	124	5	2		147	
	E10	3	15	116	5	1		137	
	N70	W60	2	1	2			3	
	W20	2		3				3	
	E10	2	14	138			1	153	
	E30	3	57	402	7	3	1	470	
	N80	E20	2	6	28	1	1	36	
	E30	3	3	6	2			8	
NS0	E40	3	1	1				2	
	W60	3	10	167	1	25	1	204	
	E30	2	3	36	1		1	41	
	N100	W30	2		1			1	
	W20	2	1	5				6	
	W10	3	9	2				11	
	WE0	2	8	39	1	2	1	51	
	E20	3	8	52	3			63	
	E50							0	
	N110	W30	3	5		1	1	7	
NS0	W20	3	9	88		3		100	
	W10	3	7	39	8	1	1	56	
	W20	2	2	1				3	
	W30	2	43	265	8	9	3	328	
	E30							0	
	N120	WE0	2	4	26			30	
	W30	3	12	1				13	
	表探	鉄塔下北側		6				6	
	鉄塔下							0	
	送電線下		1	41				42	
8次合計		812	5561	192	105	42	6712		

表注: 古代以降の遺物は割愛



表5 第10次第I区調査の出土遺物一覧

出土地 小区層	土製品				小計	石製品							合計	自然・人工 遺物	総計					
	土器	土器 片	土器 底	土器 口縁		打製石器	磨製石器	磨製石器	磨製石器	磨製石器	磨製石器	磨製石器				磨製石器	磨製石器	磨製石器	磨製石器	
a a 1		14			14									2	16	磁器	296			
a a 2		67			70	1	1	16						2	88					
a a 4		1			2									1	2					
a a 5		15	155	7	177				1					2	186					
a b 1		8	124	5	137			2	6					8	17	2 煙管・炭	277			
a b 2		9	72	5	86			1	2	3	2			11	97					
a b 5					3									3	3					
a b 6					9									8	17					
a c 1		1	105	1	107			1	4					6	18		238			
a c 2		1	5		6									3	9					
a c 4		7	45	4	57			1	1	3	1			8	65					
a c 5					6									3	9					
a d 1		7	122	4	133			1	1	25	2			28	161	磁器	259			
a d 2		4	33		37					11				11	48					
a d 3		7	39	1	48									1	1					
a d 5					31									7	38	炭				
a e 1		1	68	1	70	1	1	17		1				20	90	炭	218			
a e 2					11			2						13	6	炭				
a e 4		6	46	1	53									5	3					
a e 5					3									1	4					
a e 7					3									1	4					
a e 9					4									1	4					
b a 1		3	23		26			6						6	32	1 播	299			
b a 2		2	101		103	1		23						25	128					
b a 4			6		6									6	12					
b a 5		10	109	2	122			2		1				4	126					
b b 1		2	4		6			2						2	8		238			
b b 2		3	78	2	83	1		1	26					28	111					
b b 5		10	94	2	106									13	119					
b b 5					9									3	13					
b c 1		8	96		104	2	1	1	2	48				58	162	3 磁器・炭	287			
b c 2		3	10		13									13	13					
b c 4		8	82	5	95									3	98					
b c 5					20									3	23					
b d 1		4	73		77	1	1	2	18		1			25	102	1 炭	143			
b d 2					6									6	6					
b d 3					3									3	3					
b d 5					7									1	8					
b e 1		3	44	2	49			12						13	62	1 種	125			
b e 2					16			4						4	20					
b e 3		3	12		15			2						2	3					
b e 4					1									2	3					
c a 2		6	147	5	158	2		30						32	190	1 種子	385			
c a 4		1	3		4									2	6					
c a 5		18	157	3	178			1	7					10	188					
c a 5					8									5	13					
c b 1		2	100	3	105			1	23		1			25	130	6 炭	314			
c b 2					7									7	7					
c b 4		18	126	11	155			2						3	158					
c b 5					8									5	17					
c c 1		5	83	1	89	1		1	22					24	113	2 種子	204			
c c 2					69									1	70					
c c 3					33			1	6					6	39					
c c 5					36				10					10	46	2 陶器				
c d 1		8	48	3	60			1	4					7	16		165			
c d 2					9									2	62					
c d 3					25									4	29					
c d 5		6	62	4	72	1		12						13	85	2 磁器・炭				
c e 1		6	50	2	58									2	60		176			
c e 2					104									11	115					
c e 4					1									2	3					
c e 5		21	140	3	164									18	182	1 炭				
d a 1		17	107	7	131			1	8					11	142		173			
d a 2		1	34	1	36									7	43					
d a 5		6	66	2	74									8	80					
d a 5					5									5	5					
d b 1		3	44	2	49	2		8						10	59	1 磁器	173			
d b 2					16			3						6	22					
d b 3		5	75	2	82									3	85					
d b 5					52			10						12	64	1 磁器				
d e 1		2	34	1	37			1						8	45		184			
d e 2		5	58	2	66									8	74					
d e 3		3	65		68			27						95						
d e 5		15	166	6	187	1		1	3		2	2		10	197	4 種子				
e a 1					1									1	1		367			
e a 2					9									1	10					
e a 3		3	33	2	38									1	7	20 種子				
e a 5		15	127	4	147									5	152					
e b 1					4									1	5		177			
e b 2					67									1	5					
e b 3					26									1	68					
e b 5		7	59	1	67									8	34					
e d 1					44									2	46		80			
e d 2					9									2	11					
e d 3					9									2	11					
e d 5		6	29	3	38									2	40					
不明		14	110	3	127									2	40		52			
合計		346	4182	140	4676	25	5	5	26	606	9	21	6	2	3	32	740	5416	62	5478

表6 掲載石器属性表

番号	器種	地区 (出土区)	出土坑 層位	計測値 [mm, g. (現存値)]				石材
				器長	器幅	器厚	重量	
1	石鏃	B N50W10	3	29.10	14.70	4.40	1.21	珪質頁岩
2	石鏃	B N50W10	2	27.30	16.10	3.85	1.16	玉髓
3	石鏃	B N60WE0	1	40.70	15.90	4.60	1.95	玉髓
4	石鏃	B N50W10	3	21.00	13.50	3.90	1.12	珪質頁岩
5	石鏃	B N40WE0	3	19.40	12.70	4.10		珪質頁岩
6	石鏃	B N60WE0	1	23.20	17.20	8.40	3.17	珪質頁岩
7	石鏃	B N30W10	3	(25.20)	15.50	4.55	1.74	玉髓
8	石鏃	B N40E10	3	(36.70)	15.60	4.60	2.96	珪質頁岩
9	石鏃	B N60WE0	1	28.30	9.95	3.20	0.86	珪質頁岩
10	石鏃	B N90WE0		(32.90)	19.90	8.60	4.71	珪質頁岩
11	石鏃	B N60WE0	2	24.90	16.30	6.40	2.31	緑泥片岩
12	石鏃	B N90W0	3	26.00	11.70	4.00	1.25	珪質頁岩
13	石鏃	B N20W20	3	53.10	24.75	9.90	14.85	珪質頁岩
14	石鏃	B N90WE0	3	61.10	27.10	12.15	19.34	珪質頁岩
15	石鏃	B S10W70	3	(50.70)	18.50	14.90	15.89	珪質頁岩
16	石鏃未成品	B N90WE0		45.85	25.80	12.45	12.59	玉髓
17	石鏃未成品	N20WE0	2	(45.80)	14.50	8.35	6.78	珪質頁岩
18	石鏃未成品	C N50W10	2	34.50	25.25	12.50	5.39	
19	石鏃未成品	C N50W30	3					



1 土器(J.N80E30)



2 土器(F.N58E154)



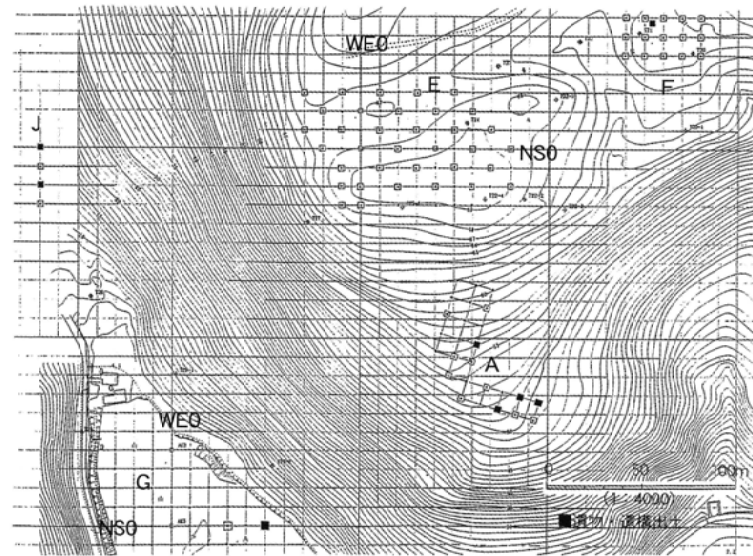
3 土器(A.NS0E40)



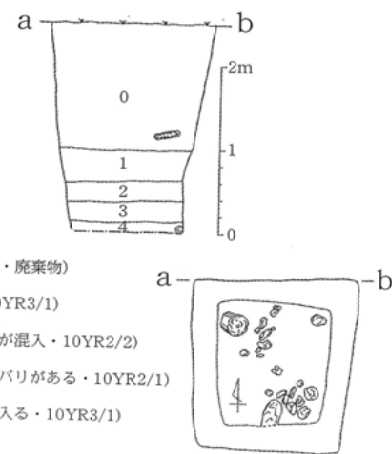
5 土器(G.NS0E50)



6 層序(G.NS0E50北壁)

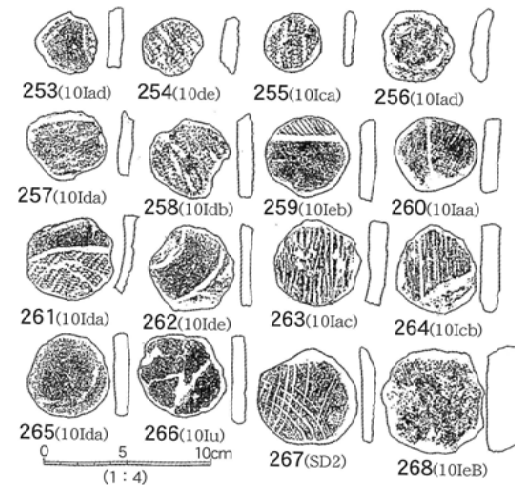


4 A・E・F・G・J地区の試掘坑配置図



- 0. 盛土 (礫・砂・土・廃棄物)
- 1. 黒褐色土 (旧耕土・10YR3/1)
- 2. 黒褐色粘質土 (ヨシ・根元が混入・10YR2/2)
- 3. 黒色粘質土 (ラマリ・ネバリがある・10YR2/1)
- 4. 黒褐色粘土 (大小の礫が入る・10YR3/1)

7 G地区の試掘坑(NS0E50)

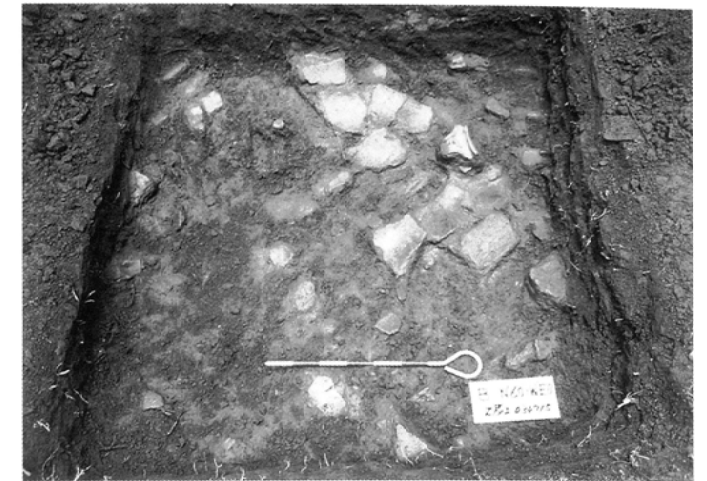


8 第10次I地区出土の円盤状土製品

A・E・F・G・J地区の調査



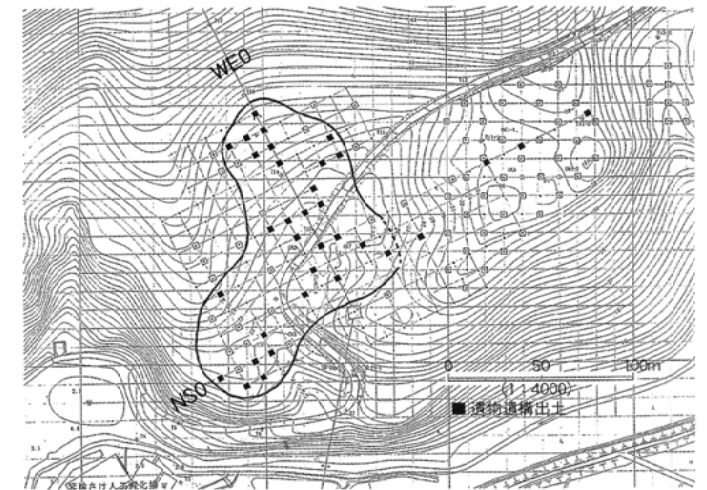
1 試掘坑(N90E30)



2 土器出土状況(N60WE0)



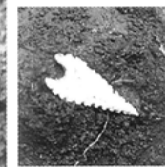
3 土器(N30W10)



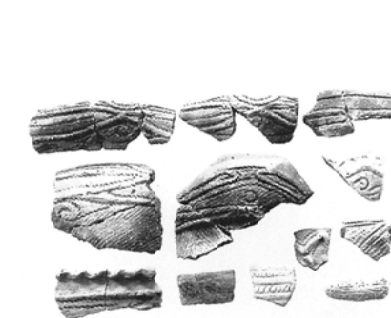
6 B地区の試掘坑配置図



4 石冠(NS0W50)



5 石鎌 (N60WE0)



7 土器(N20E50)



8 土器(N20WE50)



9 土器(N30E20)



10 土器(NS0W50)

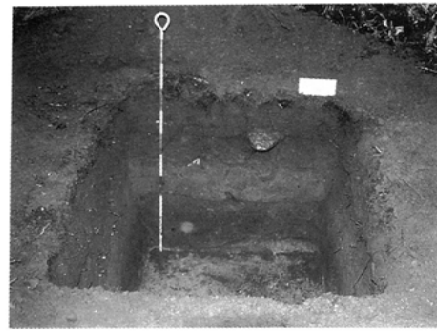


11 土器(N10W50)



12 土器(N60WE0)

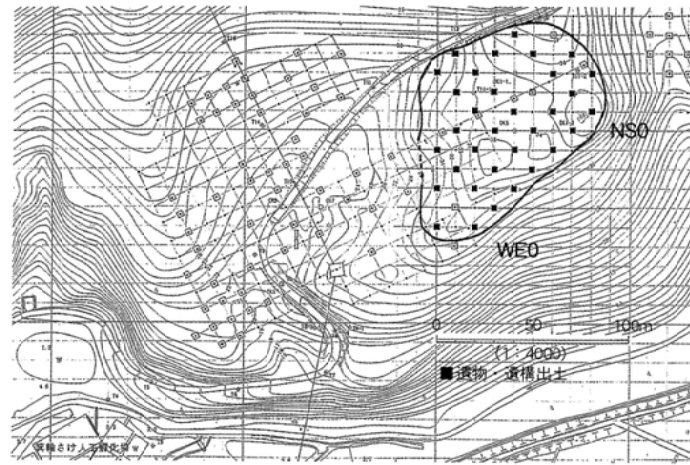
B地区の調査



1 試掘坑(NS0W30)



2 試掘坑(N20W10)



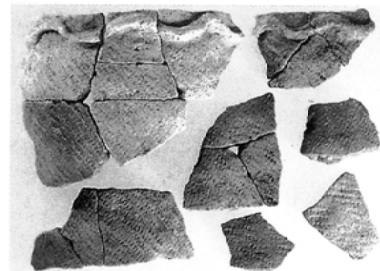
3 C地区の試掘坑配置図



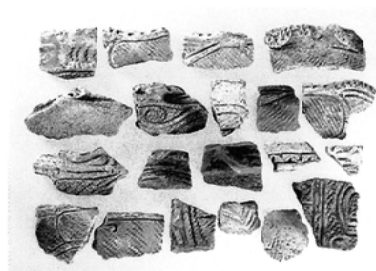
4 土器(S10WE0)



5 試掘坑(N10E20)



6 土器(N18E26)



7 土器(S20W30)



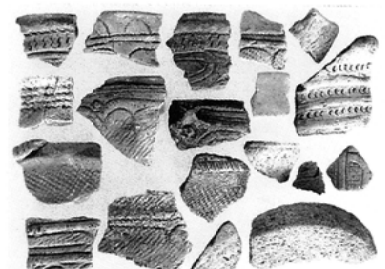
8 土器(S10EW0)



9 土器(N30W20)



10 土器(S30W40)



11 土器(S30W40)



12 土器(S30W40)



13 土器(N30E40)

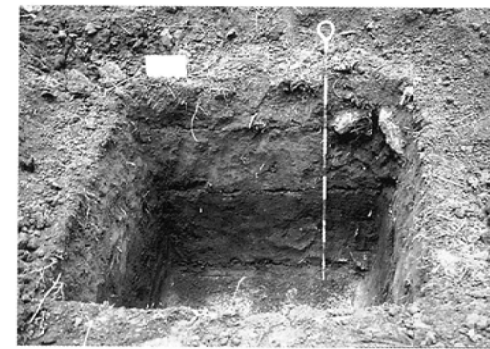


14 土器(N10E20)

C地区の調査



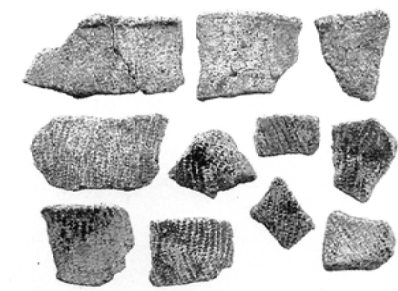
1 試掘坑(S50E30)



3 試掘坑(S40W60)



5 土器(S37E26)



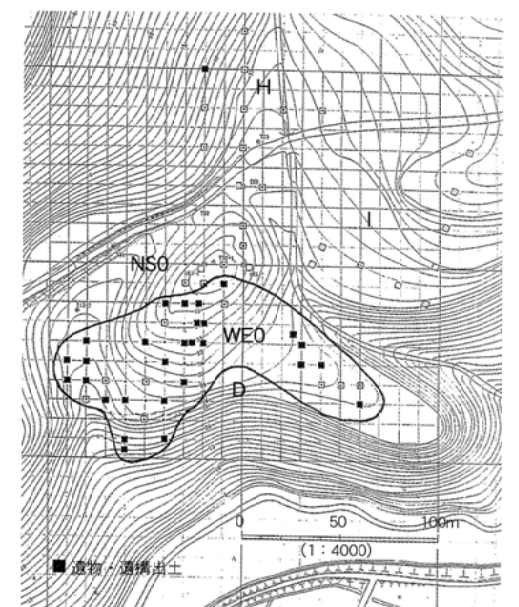
6 土器(S30WE0)



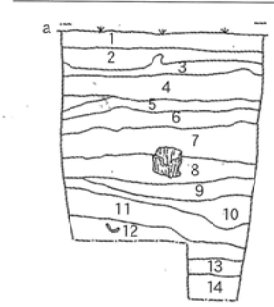
7 土器(S70W40)



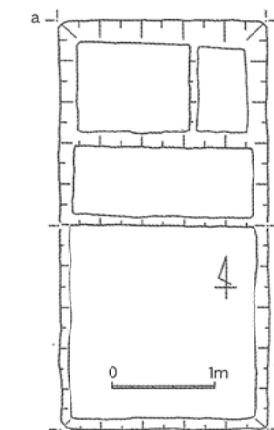
2 土器(HN40W20)



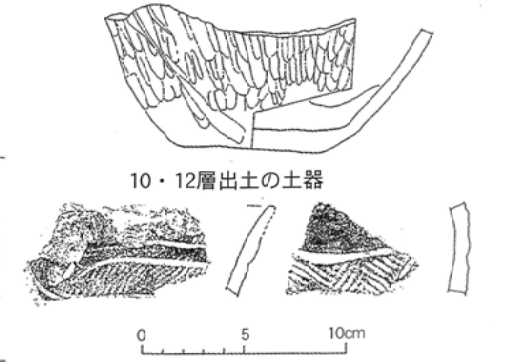
4 D・H・I地区の試掘坑配置図



9 北壁層序



8 10 II 実測図



10・12層出土の土器

第10次第II区の調査

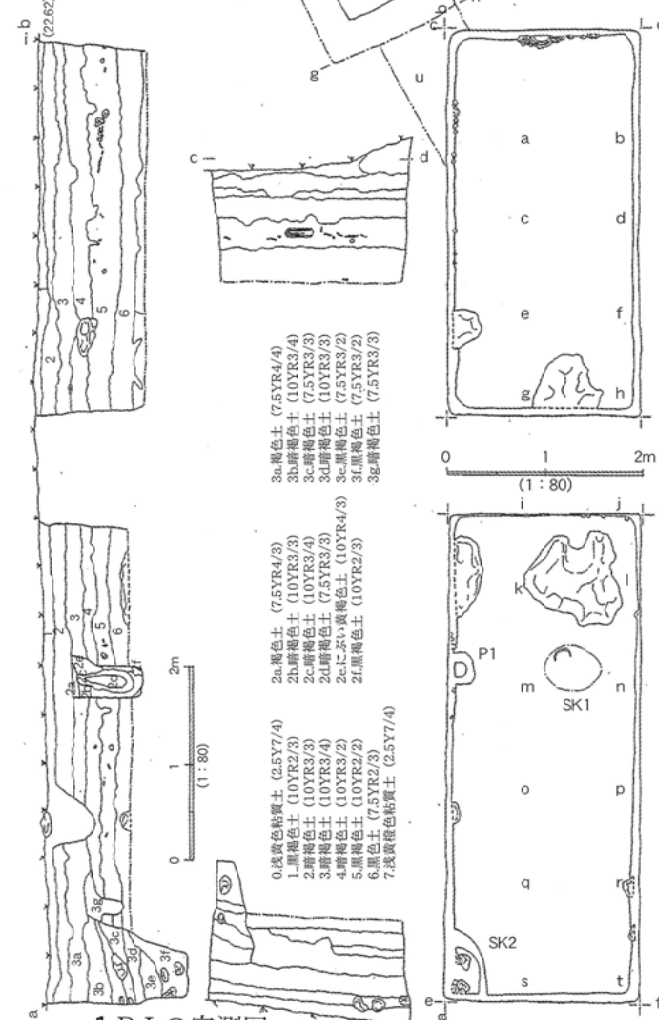
D・H・I地区、第10次第II区の調査



- 1.黒褐色土 (10YR2/3)
- 2.暗褐色土 (軟質, 7.5YR3/3)
- 3.暗褐色土 (シマリ, 10YR3/4)
- 4.黒褐色土 (土器, 7.5YR3/2)
- 5.黒褐色土 (土器多い, 10YR2/2)
- 6.黒色粘質土 (10YR2/1)
- 7.明黄褐色粘土 (10YR7/6)

2 土器(N30W10)

3 土器出土状況(N30W10南壁)

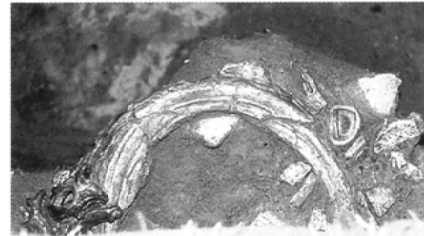


- 3a.褐色土 (7.5YR4/4)
- 3b.暗褐色土 (10YR3/3)
- 3c.暗褐色土 (10YR3/3)
- 3d.暗褐色土 (10YR3/3)
- 3e.暗褐色土 (7.5YR3/2)
- 3f.暗褐色土 (7.5YR3/3)

- 2a.褐色土 (7.5YR4/3)
- 2b.暗褐色土 (10YR3/3)
- 2c.暗褐色土 (10YR3/3)
- 2d.暗褐色土 (7.5YR3/3)
- 2e.暗褐色土 (10YR4/3)
- 2f.暗褐色土 (10YR2/3)

- 0.黄褐色粘土 (2.5Y7/4)
- 1.暗褐色土 (10YR2/3)
- 2.暗褐色土 (10YR3/3)
- 3.暗褐色土 (10YR3/4)
- 4.暗褐色土 (10YR3/2)
- 5.暗褐色土 (10YR2/2)
- 6.黒色土 (7.5YR2/3)
- 7.黄褐色粘土 (2.5Y7/4)

1 BIの実測図



4 土器出土状況(a北壁)



5 完掘状況(←南)



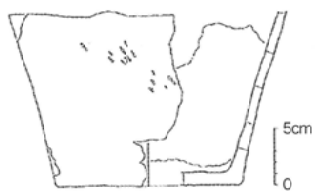
6 土坑(SK1)



8 土器(f)

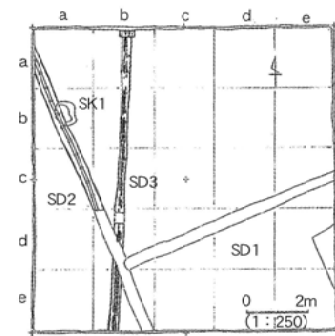


9 土器(h)



7 土器(SK1)

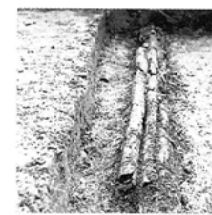
B地区第I区の調査



1 グリッド内細分と表層遺構



2 溝(暗渠)の出土状況



3 SD3の検出状況



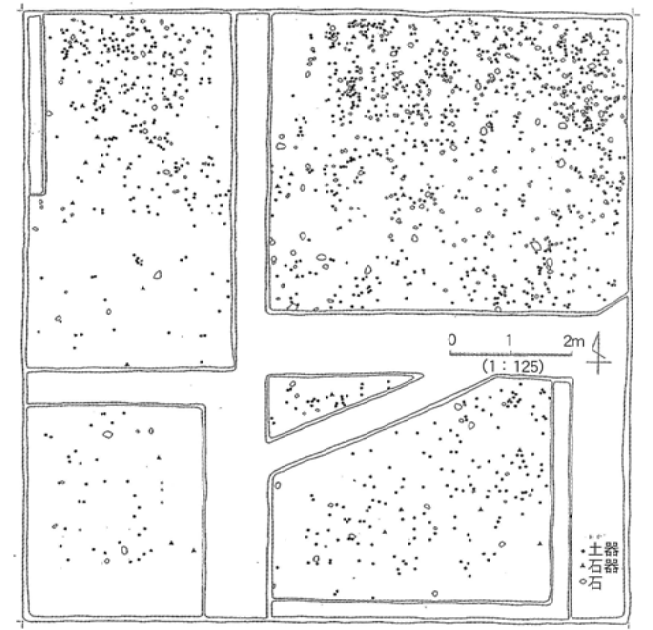
4 RW4の検出状況



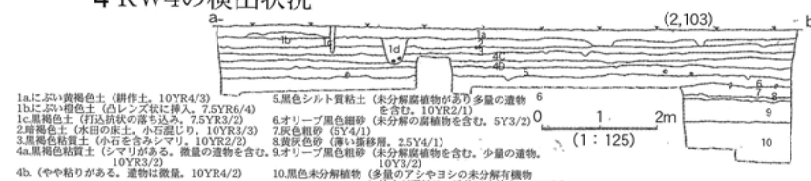
5 北西部の遺物出土状況(←南)



6 北東部の遺物出土状況(←北)



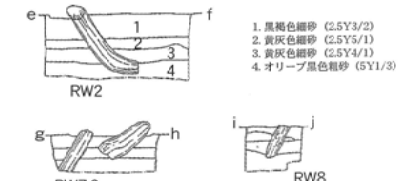
7 遺物の出土状況(5層上面)



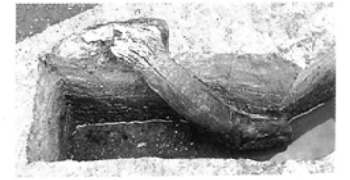
8 遺構出土状況と層序



9 遺構の出土状況(←北)



10 木製品の出土

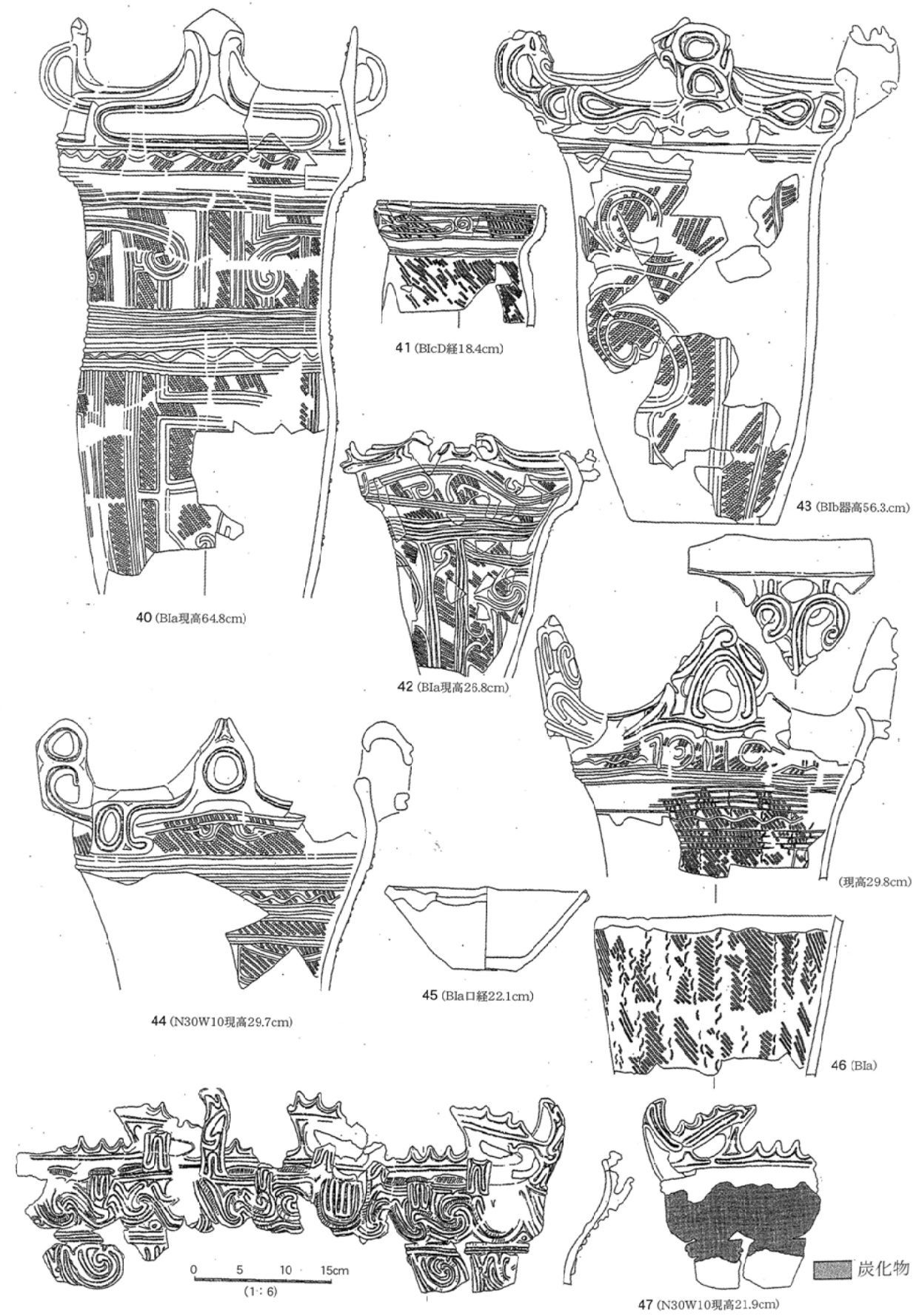


11 アスファルト容器 (ec排水構西壁1/2)

第10次第I区の調査



B・C地区出土の土器実測図 (上:B地区、下:C地区)

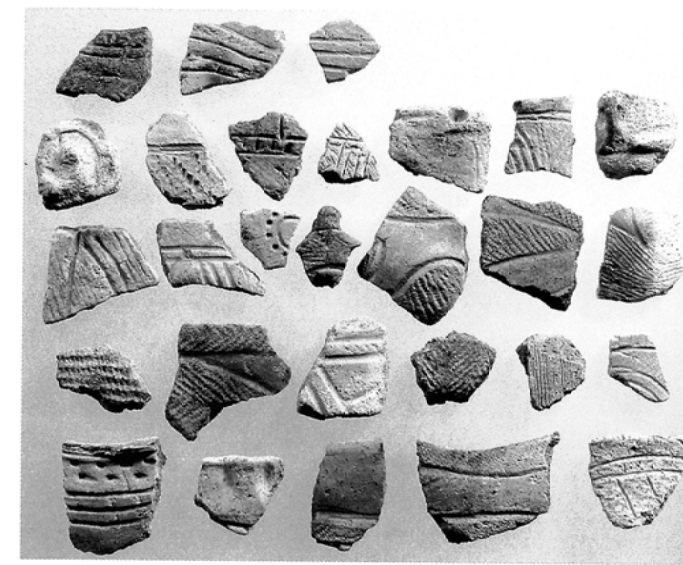


B地区出土の土器実測図

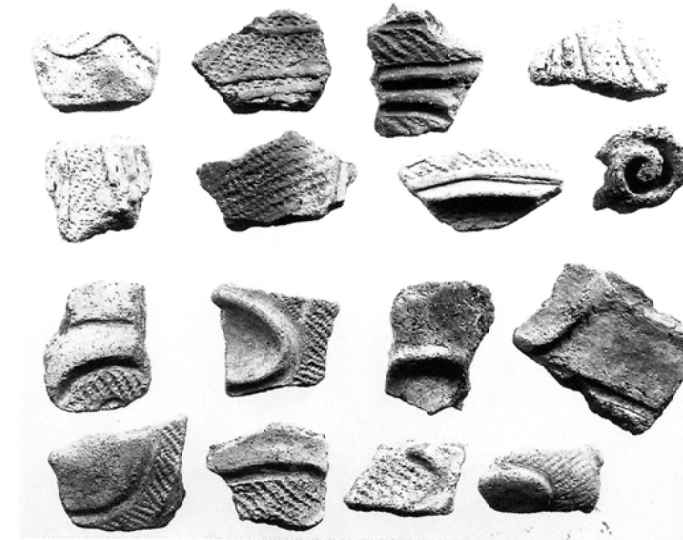


第10次第I区第1~5層の出土土器拓影

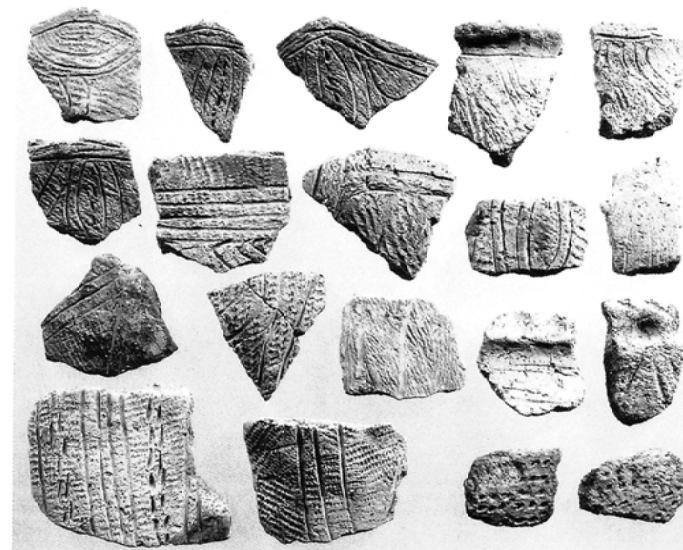
第10次第I区第1~5層出土土器



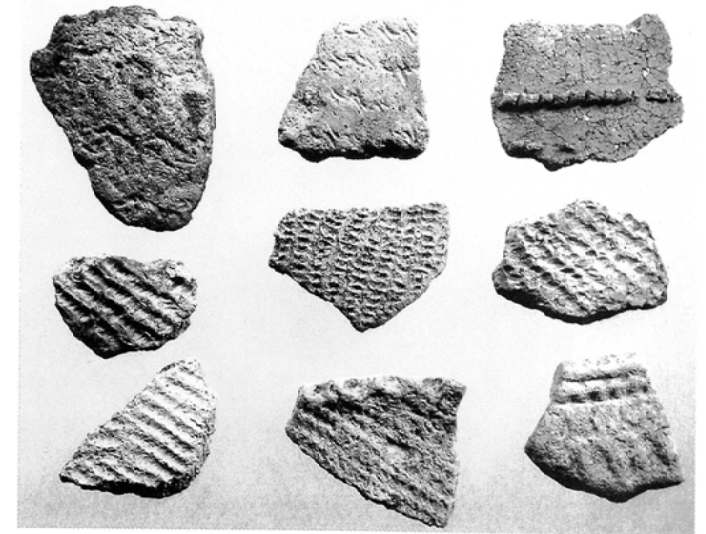
1層 48 49 50 (48~50)  
 2層 51 52 53 54 55 56 57 (51~57)  
 3層 58 59 60 61 62 63 64 (58~64)  
 4層 65 66 67 68 69 70  
 71 72 73 74 75 (65~75)



5層B 85 86 87 88  
 89 90 91 92 (85~93)  
 5層C 94 95 96 97  
 98 99 100 101 (94~101)



5層F 122 123 124 125  
 126 127 128 129 130 (122~130)  
 5層E 131 132 133 134 142  
 136 137 138 139 135 143 (131~141)  
 5層D 102 103 104 105 106  
 107 108 109 110 111  
 112 113 114 115 116  
 117 118 121 120 (102~119)



5層A 76 77 78  
 79 80 81  
 82 83 84 (76~84)

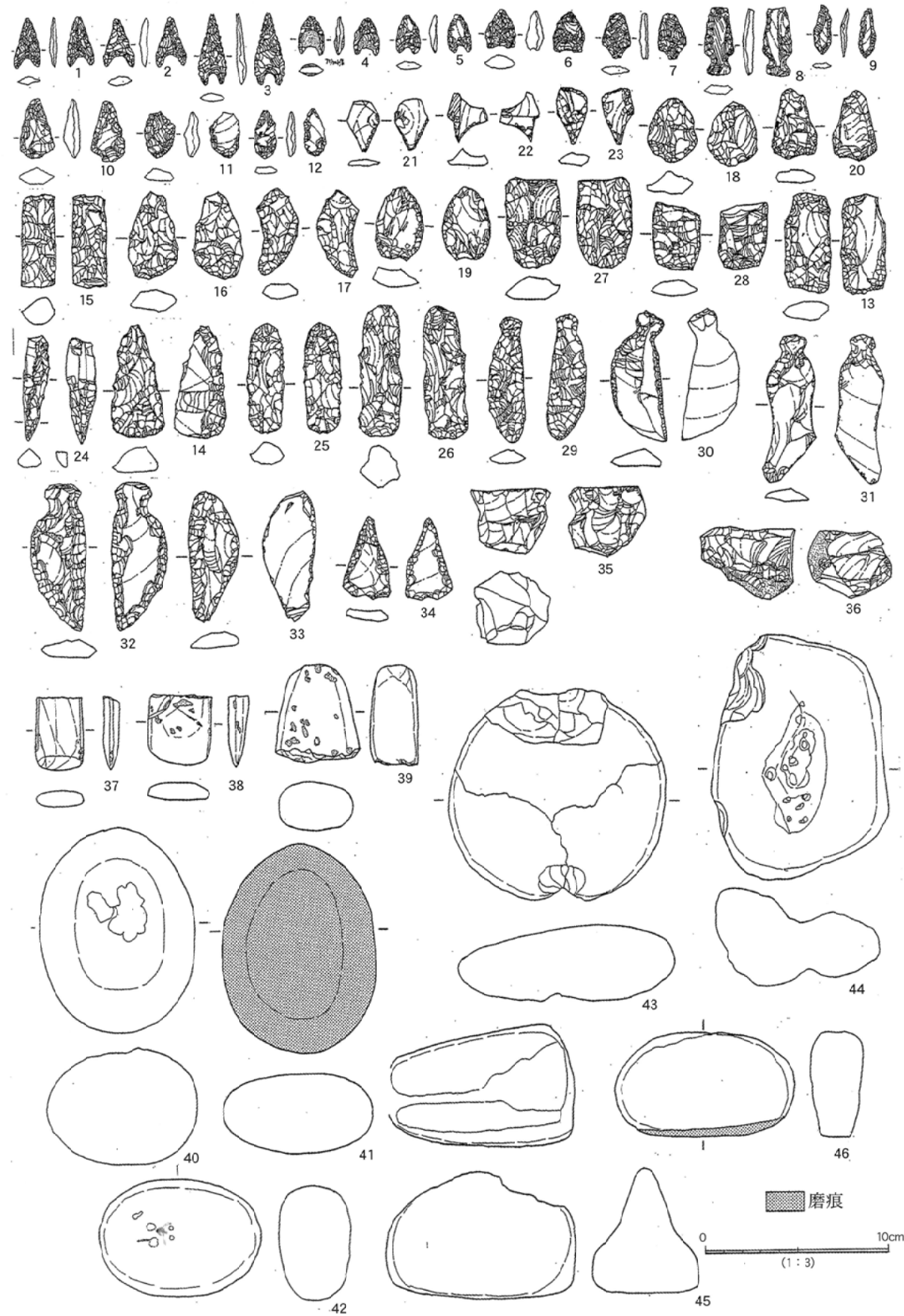




第10次第I区第5~9層の出土土器拓影

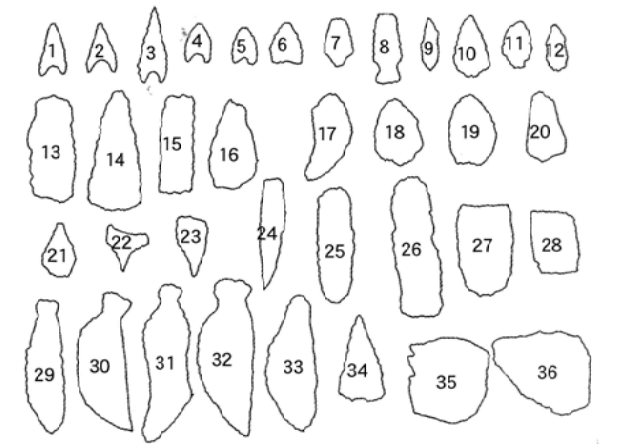
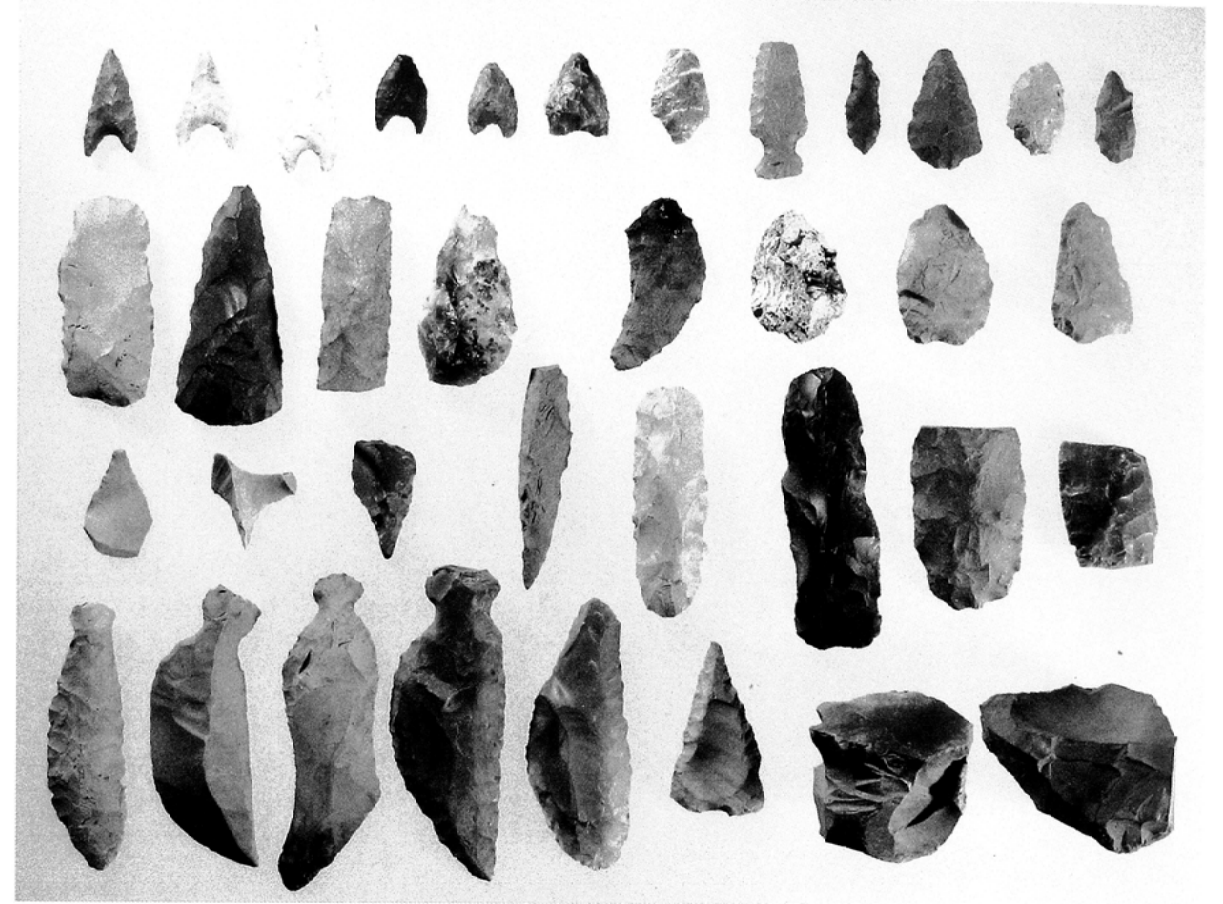
第10次第I区第5~9層出土土器



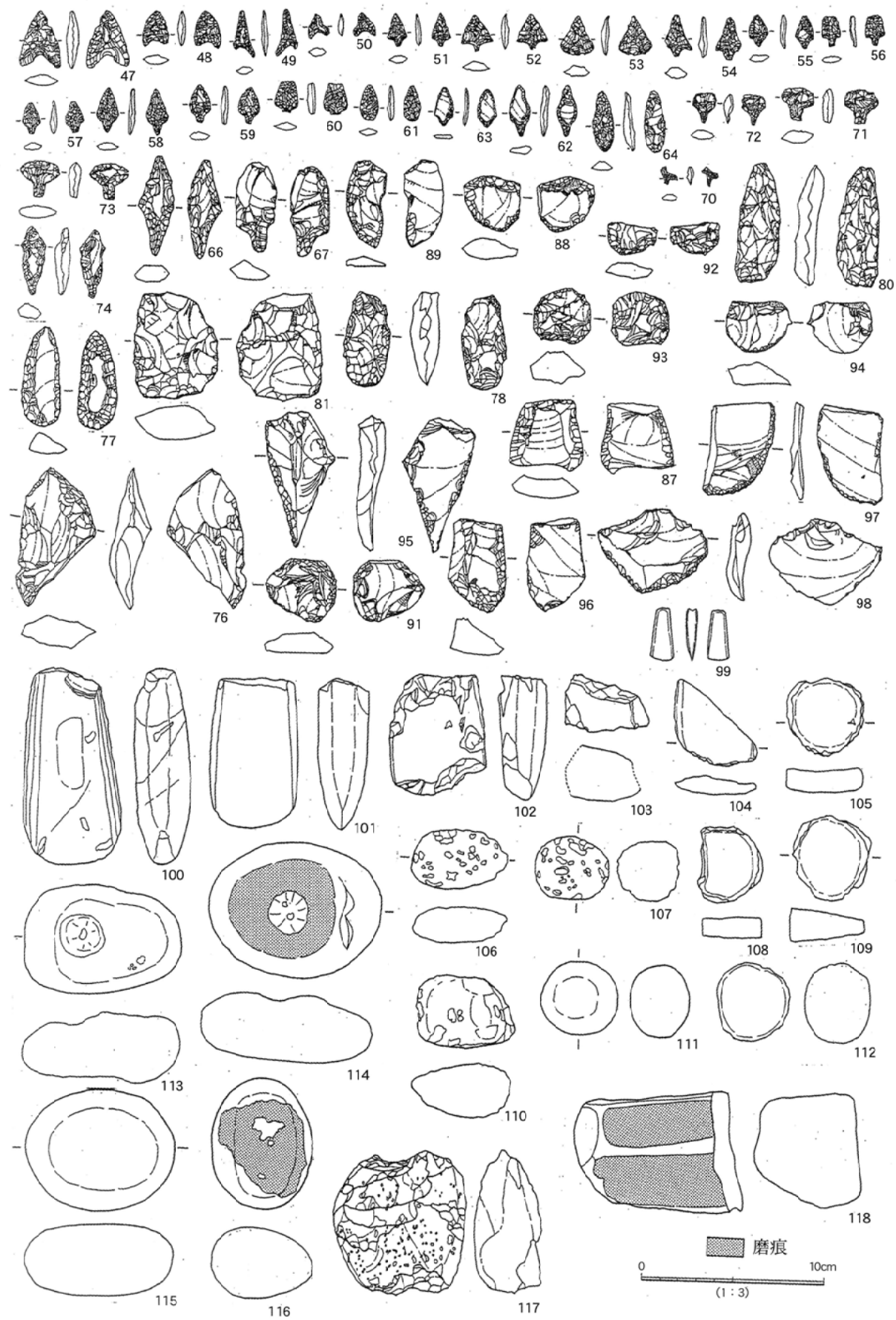


第8・9次調査の出土石器実測図

第8・9次調査出土石器

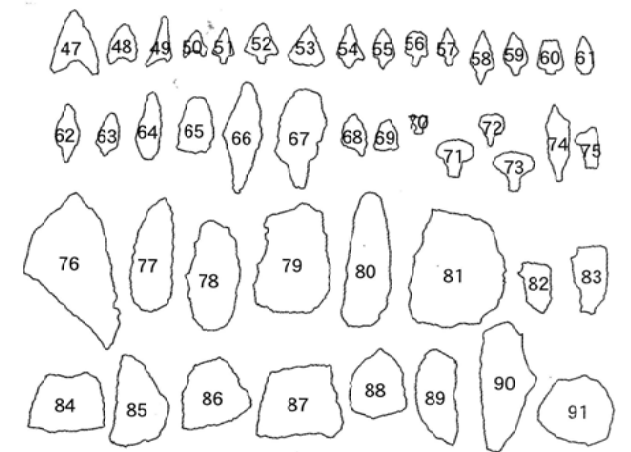
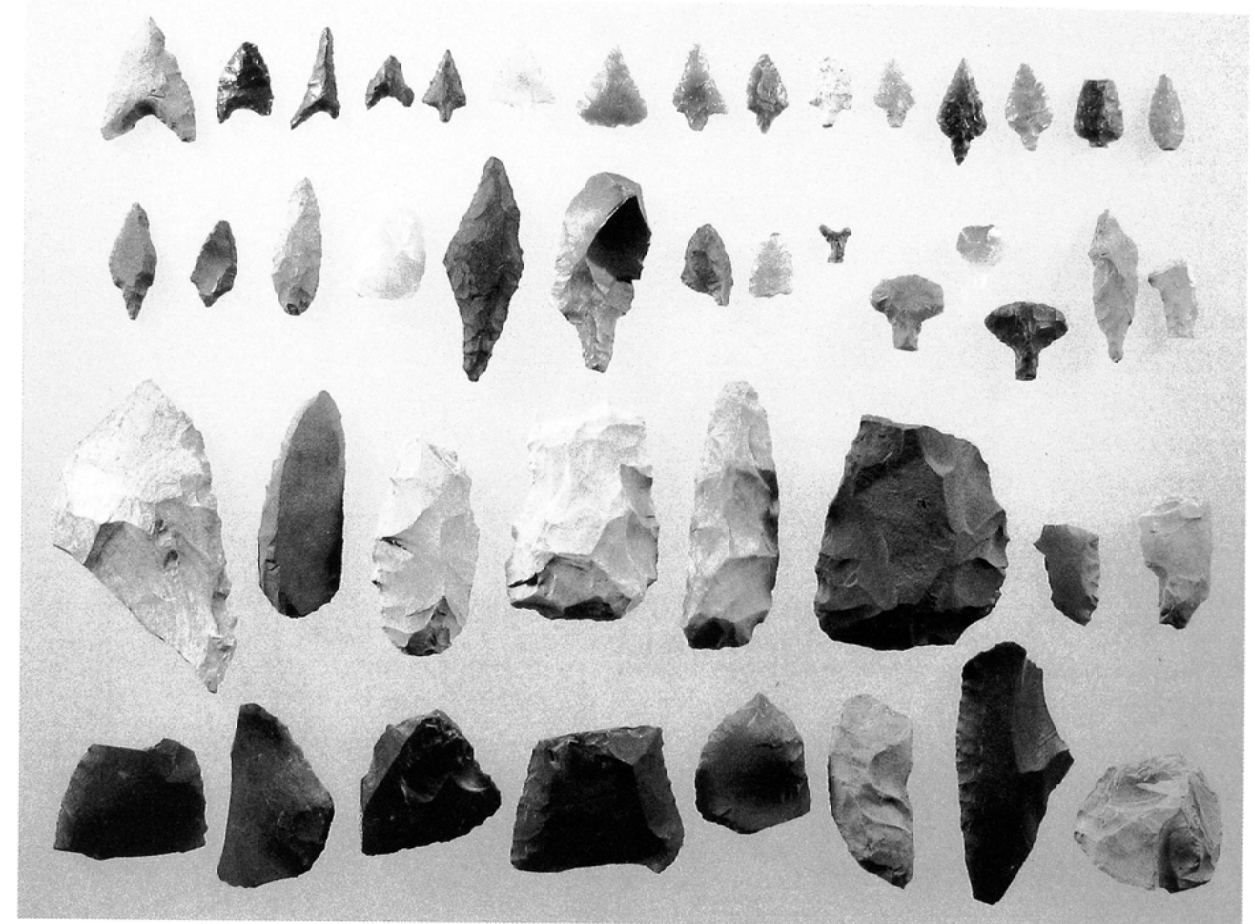






第10・11次調査の出土石器実測図

第10・11次調査出土石器



## 調査体制

第8～11次発掘調査は、下記のような体制で実施された。

### 小山崎遺跡調査委員会

調査総括 小田島健男  
 調査主任 佐藤禎宏  
 調査指導 山形県教育庁社会教育課文化財保護室・山形県埋蔵文化財センター  
 調査委員 渋谷孝雄・阿部明彦・小野 忍・酒井英一  
 事務局長 石垣 充（8・9次）・高橋勤一（10・11次）  
 事務局員 菅原 聡（8・9次）・若狭俊一・鳥海盛夫（10・11次）・渡会和裕・高橋克幸

### 小山崎遺跡発掘調査団

代 表 佐藤禎宏  
 調査補助 高橋紀子（8・9次）・小野真由美（8次）・大川貴弘  
 作業員 8～11次：高橋 艶・高橋皆子・土門 貢、8・9次：阿曾孝子・伊藤 健・高橋久雄・三浦 娃・高橋信子・土門文子・阿部國士・三ツ橋信義・志田幸夫・斎藤義喜・佐藤かな子、10・11次：常田敏郎・高橋一子・本間一吉・渋谷米子・後藤守・大日向 功・菅原二郎・佐藤吉勝・土門 博・森谷 愛

### 小山崎遺跡関係報告書

山形県教育委員会 1963年『山形県遺跡地名表』  
 山形県教育委員会 1978年『山形県遺跡地図』  
 渋谷孝雄・安部 実 1991年『分布調査報告書(18)』山形県埋蔵文化財調査報告書第163集  
 渋谷孝雄・安部 実 1993年『分布調査報告書(20)』山形県埋蔵文化財調査報告書第182集  
 渋谷孝雄 1997年「小山崎遺跡発掘調査報告書(1)」山形県埋蔵文化財調査報告書第198集  
 阿部明彦 1988年『小山崎遺跡発掘調査説明会資料』山形県立博物館  
 渋谷孝雄 1998年「小山崎遺跡発掘調査報告書(2)」山形県埋蔵文化財調査報告書第199集  
 阿部明彦 1999年『小山崎遺跡－第2次発掘調査概報』山形県立博物館  
 阿部明彦 1999年『小山崎遺跡第3次発掘調査現地説明会資料』山形県立博物館  
 阿部明彦 2000年『小山崎遺跡－第3次発掘調査概報－』山形県立博物館  
 渋谷孝雄 2000年『小山崎遺跡調査説明資料』山形県埋蔵文化財センター  
 金子浩昌 2000年「小山崎遺跡発掘調査報告書(3)」山形県埋蔵文化財調査報告書第200集  
 安部 実 2001年『小山崎遺跡第5次発掘調査概要報告書』山形県立博物館  
 山形県埋蔵文化財センター 2001年『年報 平成12年度』  
 安部 実 2002年『小山崎遺跡第6次発掘調査概要報告書』山形県立博物館  
 安部 実 2003年『小山崎遺跡調査報告書』山形県立博物館

## 報告書抄録

書名	小山崎遺跡第8～11次調査概要報告書									
副書名										
巻次										
シリーズ名	遊佐町埋蔵文化財調査報告書									
シリーズ番号	第4集									
編集者名	佐藤禎宏									
編集機関	遊佐町教育委員会									
所在地	〒999-8301 山形県飽海郡遊佐町字舞鶴211番地									
発行年月日	2005年2月28日									
ふりがな	ふりがな	コ	ー	ド	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
所収遺跡名	所在地	市	町	村	遺跡番号			(㎡)		
こやまざきいせき 小山崎遺跡	やまがたけん 山形県	461			2214	39度	139度	20030707	371.0	重要遺跡確認のための学術調査。
あいはやし いせき 柴燈林遺跡	あくみぐん 飽海郡	〃			2216	04分	53分	～		
ほか いせき 他7遺跡	あざまち 遊佐町	〃			2215	08秒	38秒	20050331		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項			
小山崎遺跡	集落跡	縄文時代 早期末～ 晩期中葉	土坑3基・溝3 条・ピットなど		縄文土器（深鉢7・ 浅鉢1・鉢3・破片 多数）円盤状土製品 16、石器（石鏃42・ 石錐9・石匕5・石 筥13・磨製石斧12・ 磨石60・凹石14・砥 石38・石皿・石錘・ 浮子・石冠など）、 植物遺存体（クル ミ・トチ）		周辺の分布調査で新 規の遺跡7ヵ所が確 認され、柴燈林遺跡 の範囲と時期が判明 し、丸池遺跡の採集 資料は柴燈林である ことが判った。			
柴燈林遺跡		縄文時代 中期中葉								
新規7遺跡		縄文時代 中期～ 平安時代								
要約	小山崎遺跡は標高約2mにある低湿地遺跡である。すでに7次の調査が実施されており、縄文時代早期末葉から晩期中葉にかけての土器・石器類、木製品・骨角器などとともに動植物遺存体が検出され、水場に臨む遺構などが発見されている。出土品の中心的な時期は縄文後期であるが、その集落の所在が未明であった。そこで小山崎遺跡とその周辺の分布と確認の調査を実施した。その結果、小山崎北部の台地には縄文中期の保存良好な集落の所在することが認められた。この山麓台地の縄文中期の遺物は、低地の小山崎遺跡へ流出の可能性が高い。しかし後期の規模大な集落跡の存在は確認できなかった。小山崎遺跡内の調査区でも、後期の集落跡に関わる確かな痕跡は検出していない。分布調査で新規7ヵ所の遺跡の時期・範囲・性格を確認しており、小山崎遺跡を広域的な観点から総括的に考察すべき方向が示唆された。									

### 遊佐町埋蔵文化財調査報告書 第4集 小山崎遺跡第8～11次調査概要報告書

平成17年3月15日発行  
 編集 小山崎遺跡発掘調査団（佐藤 禎宏）  
 発行 遊佐町教育委員会  
 山形県飽海郡遊佐町大字遊佐町字舞鶴211  
 TEL(0234)-72-3311 FAX(0234)-72-3314  
 印刷 小鷹印刷株式会社  
 山形県酒田市若原町4-20



▲ 47(B.N30W10出土1/2)

◀ 溯上するサケ(牛渡川11月)